

「ふまじめ介護」

最近、私は図書館で実に面白い二冊の本と出会いました。まず表紙のタイトルを見た時、「え！何これ？」と吸寄せられました。涙と笑いの修羅場講談 「ふまじめ介護」 講談師 田辺鶴瑛。内容は実母と夫の母である義母と、義父の三人の介護の体験記ですが、読み易い文と、実際やられてる明るい介護（？）で読んで行くうちに思わず声をあげて笑ってしまいました。この歳になるまで介護を経験した事のない私ですが、一度やってみたいなーとさえ思えました。

月は理念と現実のギャップで疲労困ぱいの日々が続いたが、看護師に「自分の人生を大事にし、そのついでに介護をする」それくらいのスタンスで取り組めば介護はもつと楽になると助言されたという。以後、介護を自分の生活のすべてにいないようにして来た、そしてヘルパー、ケアマネ、医者、看護師、施設、近所の人などいろいろな人の助けを借りながら進めていく事が大切と。認知症でもある義父とのユニークな対応の数々には、「凄い！」の一言。発想の転換の大切さと面白さを学びました。

田原本議会
議員
森 良子



収穫の喜び

稲がたわわに実って好天の中、稲刈が行われていました。豊作は気持ちを豊かにしますが、今年は、売値が六〇〇一万三百円と大変厳しいと伺っています。これからの農業が問われているとは近くの総代さんの弁です。豊作を祝う祭りが各神社で催されている中、先の日曜日に十六市が開催されました。昨年は大雨で大変悲惨な状態でしたが、今年は天候に恵まれたくさんの方でにぎわっていました。

のパフォーマンスなど盛りだくさんの取組。五千人或は一万人以上参加されておられたと感じました。「いろいろ買ったけどみんなおいしかったよ」という反面、お店をしていただけたのは、「完売したよ。しんどかった」町外の方も多くて、若いご夫婦に聞いたところ、「ネットで見て樫原から来ました。教会を見に行つてから一周してきました。」そうです。他町村からたくさんの方が集まっていた昔の賑わいを再現出来たようです。みなさんいい顔をされていたのが印象的でした。

田原本議会
議員
吉田容工



近鉄石見駅係員の 有人化を求め三宅 町長に申し入れ

近鉄石見駅の駅係員が無人化になって10カ月になるうとしています。この間に住民の皆さんに「暮しのアンケート」を行い石見駅の無人化と駅前整備などに対して450項目を超える意見をお寄せいただきました。

15日、「暮しのアンケート」に基づいて近鉄石見駅の駅係員の有人化を求め志野孝光三宅町長に申し入れしました。志野町長は「町としても駅係員の有人化には賛成」と回答。他の



項目（石見駅前の整備、国道24号線バイパスの完成に伴う対策など450項目）についても「アンケートの結果を見させてもらい、今後、予算化出来るものは検討していきたい」との答弁がありました。三宅町 池田年夫

存亡の危機

週末は好天に恵まれましたね。この時期、何をするにも持つてこいの季節ですね。町内の田園では、稲の収穫もほぼ終わつた感が有りますね。

私は、農家では有りませんので、この手の作業には全く携わった事が無く、生産者の苦労は体現していませんでした。もっぱら消費専門です。先日、収穫作業中の知り合いに出くわした折の事です。が、「何の為の米作りか、よく分からんわ」と、溢してはりました。と言うのも、米の価格がべた落ちで、ご本人が会社努めで得た収入を農業に注いで、何とか維持しているのが実態との事です。「こんな状態では、生産意欲は削がれるのみで、子どもにも託されへんし、全く

将来性は無い」と、断言して張りました。

普段、消費者として米や野菜を買っているだけでは、生産者が抱いてはるこの辺の事情はほとんど見えて来ません。目に入るとすれば、価格の上がり下がり位ですもんね。なんでもそうですけど、作って販売したら、それに費やした経費がきちんと回収できて、尚且つどれだけの収入がそこに乗つて来るのかで、次への意欲が沸いて来ると言うもんですもんね。

このままでは我々の主食であるコメの再生産が、正に存亡の危機に瀕しているに等しい話でした。

川西町議会
議員
芝和也

